

2026年度 国際社会で活躍する人材養成特別プログラム

募集要項

<対象：2026年度 学部生・研究科生>

1、プログラムの概要

立命館大学では、モチベーションの高い優秀な学生を励まし、難関進路への挑戦をサポートするため、国際社会でのキャリア形成を目指す学生に対して、宮家邦彦本学客員教授を中心とした「国際社会で活躍する人材養成特別プログラム（通称：オナーズ・プログラム）」を2005年度後期より開講しています。

※本プログラムは正課外のプログラムです。単位は授与されません。

2、本プログラムで身につける力

国際社会で活躍する人材に求められる「6つの力」

国際社会で活躍するために必要な力量は、本プログラムの受講と併せて、正課授業はもちろんCLAやエクステンションセンターといった課外講座などを組み合わせることで、バランスよく身につけることが求められます。とくに本プログラムで力を入れている力量は次の6つです。

<本プログラムで身につける力>

ビジョン形成力

宮家邦彦客員教授を中心としたゼミナールで、国際社会で生きるための常識と座標軸を身につけます。

論理的思考・交渉力

RPS (Ritsumeikan Policy Simulation)
宮家邦彦客員教授・伊藤弘太郎客員准教授の指導の下、国際社会における課題について、論理的に意見を主張できる力を身につけます。

行動力

海外フィールドワークや、APUとの合同プログラムなどへの参加を通じて、学んだ知識、素養を実践します。

コミュニケーション力

グループワーク
プレゼンテーションやディスカッション、文章表現の能力を磨きます。

英語力

RPS (Ritsumeikan Policy Simulation)
英語でコミュニケーションがとれるよう確かな英語力を身につけます。

基礎教養 進路突破力

目標シートの作成・到達度検証、OBOGとの交流、自学自習

3、プログラムの特徴

1. 宮家邦彦客員教授（外交評論家）によるゼミナール 【全員必須】

日本を代表して国際社会で活躍するためには、学力や知識、経験はもちろんのこと、幅広い教養や良識、倫理観、想像力、包容力などの能力が求められます。本プログラムでは、宮家邦彦客員教授の指導の下、これらの力量を総合的に高めるためのゼミナールを行っています。

2. 宮家邦彦客員教授（外交評論家）・伊藤弘太郎客員准教授による RPS(※) 【全員必須】

※Ritsumeikan Policy Simulation の略

宮家邦彦客員教授・伊藤弘太郎客員准教授の指導のもと、論理的思考や交渉力、判断力などの「知的運動神経」を鍛える取り組みとして RPS を行っています。日本語だけでなく英語による RPS の回を設けるなど、英語力の強化も目指しています。

3. 国内外研修を通じた実践活動 【受講生からさらに選抜】

2006 年度から、インド、パレスチナ・イスラエル、インドネシア、そして 2012～2014 年度は中国・南京、2015 年度は韓国、2016 年度はアメリカ、2017 年度はケニア、2018 年度はベトナムで海外研修、2023 年度はインドネシアのナトゥナ諸島、2024 年度はアメリカのワシントン、2025 年度は 20 周年を記念して、故岡本行夫先生が思いを寄せられた沖縄で研修を実施しました。研修を通じて、国際的な相対感覚を涵養します。（2019～2022 年度はコロナの影響により海外研修は中止）

4. プログラム修了生の OB・OG とのネットワークの形成

これまで、本プログラムの修了生が卒業後、国際的なフィールドを中心に様々な舞台で活躍しています。OB・OG との交流の機会などを通じて、将来のキャリアを考える上で貴重な経験としてください。



【オナーズ・プログラム過年度修了状況】

年度	期	法	産業社会	国際関係	政策科学	文	経済	経営	理工	情報理工	生命	スポ健康	総合心理	食マネ	GLA	合計
2005	1期生	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
2006	2期生	7	2	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
2007	3期生	5	2	5	2	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	19
2008	4期生	2	2	5	3	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	16
2009	5期生	1	0	9	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	14
2010	6期生	3	1	6	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	15
2011	7期生	2	0	2	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	9
2012	8期生	2	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6
2013	9期生	2	1	2	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	8
2014	10期生	4	4	7	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	20
2015	11期生	4	3	5	1	1	4	1	2	0	0	0	0	0	0	21
2016	12期生	5	3	16	5	3	4	6	3	0	1	0	0	0	0	46
2017	13期生	10	8	15	5	5	9	4	2	0	2	1	0	0	0	61
2018	14期生	9	3	16	2	8	9	5	1	0	0	1	0	0	0	54
2019	15期生	9	5	16	2	5	7	8	3	2	2	0	1	0	0	60
2020	16期生	12	6	12	5	3	13	6	1	1	1	1	0	0	0	61
2021	17期生	8	1	15	1	3	6	5	2	0	1	0	2	2	1	47
2022	18期生	7	3	13	3	4	7	1	3	1	0	0	0	0	1	43
2023	19期生	0	4	7	1	1	2	1	3	1	0	0	0	1	0	21
2024	20期生	3	2	5	1	4	7	3	2	1	0	0	0	1	0	29
	合計	95	50	166	40	41	78	52	23	6	7	3	3	4	2	570

【修了生の主要な進路】

<就職先> ※一部抜粋

外務省、財務省、防衛省、文部科学省、法務省、厚生労働省、神奈川県、奈良県、岡山県、神戸市、芦屋市、久留米市、伊藤忠商事、三菱商事、豊田通商、フジテレビジョン、朝日新聞社、日本放送協会（NHK）、三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行、みずほフィナンシャルグループ、国際協力銀行、滋賀銀行、四国銀行、農林中央金庫、京都中央信用金庫、大和証券、SMBC日興証券、みずほ証券、岡三証券、ソニー、NEC、三菱電機、パナソニック、シャープ、富士通、日立製作所、ヤマハ、本田技研工業、スズキ、東レ、クラボウ、花王、ジョンソン・エンド・ジョンソン、オムロン、キヤノン、サッポロビール、日本航空電子工業、博報堂、ユニクロ、JFEスチール、住友スリーエム、住友ゴム工業、NTN、双日ロジスティクス、いすゞ自動車株式会社、学校法人立命館、他

<進学先>

London School of Business and Management、東京大学大学院、京都大学大学院、一橋大学大学院、東北大学大学院、神戸大学大学院、立命館大学大学院、早稲田大学大学院、慶應義塾大学大学院 他

4、指導・運営体制

スーパーバイザー
宮家 邦彦 客員教授

MIYAKE Kunihiko



1953年、神奈川県生まれ。東京大学法学部卒業後、外務省入省。外務大臣秘書官、在米国大使館一等書記官、中近東第二課長、中近東第一課長、日米安全保障条約課長、在中華人民共和国大使館公使、在イラク大使館公使、中近東アフリカ局参事官を歴任。2005年8月退官。安倍内閣で総理大臣公邸連絡調整官。現在、内閣官房参与、本学客員教授、キャノングローバル戦略研究所理事・特別顧問。

プログラム運営体制

【スーパーバイザー】 宮家 邦彦（客員教授）

【コーディネーター】 山中 司（生命科学部教授）、徳川 信治（法学部教授）

【アドバイザー】 伊藤 弘太郎（客員准教授）、薬師寺 公夫（名誉教授）
志磨 慶子（元・学校法人立命館常務理事）

【ゲストスピーカー】 千葉 明（元・外務省 / 前・駐バチカン特命全権大使）

【運営事務局】 全学教育課（共通教育グループ）

故・岡本 行夫 元客員教授について

2020年4月24日、本プログラムを立ち上げられた岡本行夫先生が、新型コロナウイルスによる肺炎でご急逝されました。岡本先生は、2005年度から講演会・ゼミナールを通じて、学生に国際社会で活躍するためには自らのプラットフォーム（座標軸）をしっかりと作り、多様性を受け止め、一致点を見出すことの重要性、徹底した「現場主義」を掲げ、語学力を磨くとともに、自らの五感で世界に触れる重要性を訴えてこられました。ご自身で奨学金を創設され、アフリカ、中東、インド、中国、韓国、アメリカなどに受講生を派遣する「海外研修プログラム」にも取り込まれました。受講生には自らの意思で能動的に活動できる「プロアクト型」人材となるように指導され、岡本先生にご指導いただいたプログラム受講生は、外務省をはじめとした中央省庁、地方自治体、NGO・NPOを含む国際開発・援助団体、国内外のグローバル企業、起業家など多方面で活躍し、岡本先生から受けたご薫陶が未来を切り拓く道しるべとなっています。

<故・岡本行夫元客員教授ご略歴>



1945年、神奈川県生まれ。68年一橋大学経済学部卒、外務省入省。北米局安全保障課長、北米第一課長等を歴任し、91年退官、同年、岡本アソシエイツ設立、代表取締役就任。橋本内閣で96年-98年沖縄担当総理大臣補佐官。小泉内閣で01年9月より内閣官房参与、03年4月より04年3月まで総理大臣補佐官（イラク担当）。

東北漁業支援プロジェクト「希望の烽火基金」代表理事、立命館大学客員教授、政府関係機関や企業への助言活動の他、外交評論家として国際情勢を分析、執筆・講演・メディアなどで幅広く活動された。2012年10月よりアメリカ・マサチューセッツ工科大学国際研究センターにてシニアフェローにも就任された。

5、プログラムのスケジュール

※プログラムは予定であり、変更、中止になる可能性もあります。

1. RPS : Ritsumeikan Policy Simulation <宮家邦彦客員教授・伊藤弘太郎客員准教授>

春学期4回、秋学期4回の合計8回を予定。（うち1回はAPUで実施予定）

主に授業日・補講日を除く土・日・祝日に実施。

2. ゼミナール（宮家邦彦客員教授ほか）

年間に数回程度を予定。主に授業日・補講日を除く土・日・祝日に実施。

3. 海外研修プログラム

休暇期間中に10日間程度の海外研修を実施予定。オナーズ生の中から選抜（岡本行夫研修奨励金・学内助成制度の補助があります）。場所や実施時期は変更になる可能性があります。詳細は未定のため、決まり次第、周知します。

4. OB・OGによるキャリア相談会・交流会

国際社会で活躍されている本プログラム修了生によるキャリア相談会・交流会を実施予定。

5. インターンシップ

宮家邦彦客員教授・伊藤弘太郎客員准教授が所属する「キャノングローバル戦略研究所」などでのインターンシップを実施する可能性あり。

6、参加費用

ゼミナールや RPS に参加するための費用は発生しません。但し、国内外研修等参加に参加する場合は一部自己負担があります。


※キャンパス間移動交通費、交流会の食費、オンラインで実施する際のパソコンおよび通信費、APU 移動交通費（一部補助を予定）、インターンシップでの移動交通費、プログラム外である「エクステンションセンター講座」「CLA 講座」などは自己負担です。

※海外実習も原則自己負担ですが、岡本行夫研修奨励金により一部の旅費・宿泊費等を補助します。

7、プログラムの実施方法

RPS とゼミナールは「対面」を基本としながら、「オンライン」で実施する回も設ける可能性があります。オンラインで実施する際は「Zoom」を利用します。

8、募集概要・出願方法

① 対象	2026 年度 学部生・研究科生
② 人数	40 名程度
③ 応募条件	(1) 将来、外交官、国際機関職員、グローバルな人材が求められる民間企業、NGO リーダーなど国際社会の難関進路を目指していること (2) 一定の英語力を有し、今後も英語力の強化を目指していること (一部、英語で実施するプログラム有り) 目安：TOEFL(ITP®) 480 点程度以上、TOEFL(iBT®) 54 点程度以上、TOEIC(IP®) 540 点程度以上 (3) プログラム生としてふさわしい学業成績を収めていること (4) 自らのキャリア形成に向けた学習に取り組んでいることが望ましい
④ 応募方法	以下の WEB 申請画面よりエントリーしてください。 https://cw.ritsumei.ac.jp/campusweb/SVA20D0.html?key=SUR20260323170926314097436  ※入力した情報は、送信前に自身で必ず手元に保管しておいてください。 入力した情報をもとに面接選考します。
⑤ 受付期間	【在学生】2026 年 4 月 12 日（日） 締切 【新入生】2026 年 4 月 19 日（日） 締切
⑥ 選考	・出願書類をもとに書類審査し、その後面接選考を実施します。

	<p>面接は 2026 年 4 月上旬～4 月下旬を予定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程や可否の連絡は、事務局より改めて連絡します（moodle+R、E メール等）
⑦ 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則「通年参加」を求めますが、留学等で事情がある人は「半期」での活動も認めるなど、個別相談に応じます。すでに留学などの予定が決まっている場合は、事前に事務局に申し出てください。 ・プログラムの一部を欠席する場合は、事前に欠席届を提出することで本プログラムの欠席を認めます。 ・原則として休学者の受講は認めませんが、休学の状況に応じて一部参加を認めることがあります。事前に事務局までご相談ください。 (ただし、その場合でも各種奨学金や補助金の対象外になる可能性があります)
お問い合わせ先	<p>立命館大学 全学教育課 オナーズ・プログラム事務局</p> <p>場 所：衣笠キャンパス 尚学館 1</p> <p>TEL : 075-465-8472</p> <p>メール： honors@st.ritsumei.ac.jp</p> <p>H P : http://www.ritsumei.ac.jp/honors/</p>